

第 18 回 第 2 次瀬戸市教育アクションプラン推進会議
議 事 録

日 時：令和 5 年 7 月 24 日（月）午後 3 時 00 分から 4 時 33 分まで

場 所：瀬戸市役所 4 階大議室

出席者：（敬称略）

<会長>吉田 淳

<副会長>右高 恭子

<委員>一尾 茂正、伊藤 陽子、長田 高代、加藤 篤、加藤 千春、加藤 中哉、
塚本 友人、中島 なぎさ、中村 公城、福岡 明、和佐田 強
（50 音順）

<オブザーバー>杉江 圭司（まちづくり協働課長）、井上 紀和（文化課長）、
中村 浩司（スポーツ課長）、山井 利明（こども未来課長）、内田 智高（健康
課長）

<事務局>加藤 正彦（教育長）、磯村 玲子（教育部長）、谷口 壘（教育政策課
長）、豊田 幸一（教育政策課主幹）、大羽 健志（学校教育課長）、此下 明雄（学
校教育課主幹）、加藤 都志雄（学校教育課主幹）、吉村 きみ（図書館長）、松見 健
一（教育政策課課長補佐兼企画補佐）、松浦 慎造（教育政策課専門員兼企画係長）、
葛西 匠（教育政策課主事）

議事録：

1 会長あいさつ

吉田会長よりあいさつがあった。

2 審議事項

令和 5 年度瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書
（対象：令和 4 年度）（案）について
事務局より資料 2 に基づき説明。

委 員： 「さまざま」と「様々」2つの表記があるので、修正をお願いしたい。そ
の他の表記の統一や用語解説についても確認と修正をお願いしたい。

委 員： 評価指標が現在ではそぐわないものもあるのではないかと。次回の計画にお
いては実際に施策がどんなふうに進捗しているかなというのが見えるよ
うな評価指標を設定していくことをお願いしたい。

会 長： この件に関して事務局から説明があればお願いしたい。

事務局： 先ほどご意見の中にあっただよように、第3次アクションプランを策定する際には、進捗を判断しやすい指標を取り入れて策定するように考えていきたい。

委 員： 自己有用感や自己肯定感という言葉の本質が違うのではないかと思い、意見を書いた。自己肯定感というのは、自分には良いところがあるのではなく、間違いなく自分のでこぼこをそれでいいのだということであり、そういった考えを早急に皆さんの中で統一してもらいたい。また、文化芸術活動の点で、夏休みなどで児童生徒を無料招待していただけると子どもたちの文化意識も高まるのではないか。

委 員： 環境によって障害がハンディにも個性になるという話を聞いて考えた意見を報告書に書いた。子どもたちに合う環境って何だろうっていうことを提言していき、このアクションプランを推進する中で、地域に教育委員会の立場で発信できればなと思う。

委 員： 不登校をゼロにすることが目標ではなく、瀬戸市が不登校に対して寛容な社会になっていくといいのではないか。

子どもの居場所「せと“ここ”ほっとルーム」の立ち上げに際して子どもや保護者の声がどれくらいあり、どのくらい関わっているのか。

副会長： 不登校ゼロにするのが着地点でないとか、あと子どもたちにとって多様な居場所があるっていうのはすごく大事なことだと思っている。子どもから出た声の場所というわけではないが、学びの場がなくて、どこにも関わっていない子たちがいるっていう現状や、学校までは来ることができるが、その後対応する教職員としても多忙化で人がいないとか場所がないとか、そういった声も現場からたくさん聞こえてきたため、本当に子どもたちにとって居心地の良い場所が必要ではないかっていうことで動いた。スタートしたばかりで、これから形を作っていく。できるだけ子どもたちにとって、社会的自立が目指せる場所になるように、大人が目線だけでなく、来た子どもたちやその学校の全校児童生徒と関わっていきたいと考えている。いろいろな子どもたちの意見を聞きながら、できる限り子どもの視点で準

備を進めていきたい。

委員：保護者としてはどうしたらいいかわからないこともあるため、こうした受け皿を作っていただくことはとても良いことであると思う。

委員：新しく始まる「子どもの居場所」事業も親としてはありがたい場所ができたと思う。

委員：基本施策16男女共同参画社会の推進について男女でなく、性的マイノリティの方についてもどうしていくのか。男女だけにこだわるって良いのかと思う。また、評価指標が校長・教頭における女性の登用率だけで良いのか。

委員：未来を生き抜く子どもの育成について、現場の先生は子どもたちのコミュニケーション能力が不足していると感じている。人と関わる力を意図的に高めようといろんな学校で取り組みがされている。こういったところも学校だけじゃなくて、目を向けていけるといいなと思う。

委員：本校の児童で日本語が全くできない児童に対して日本語初期指導教室を開催していただき、ある程度日本語ができるようになったので感謝している。

委員：公教育をこういうふうにしていこうという瀬戸市としての意思のあらわれと考えるとやはりある程度、一つの型にはめて打ち出していかなければならない。ただ昨今そういうふうに児童生徒に対して一つの方向に持つていこうとすることが適切なのかという意見が以前に比べて多いように思う。今日のようにいろいろな意見が出ることはいいと思うので、教育委員会の事務局と一緒に思い悩んで、これから少しでも良い方向に行くようにしていきたいと思っている。

委員：安心で安全な学校づくりの充実に関連して、先日宮城県で軽トラックが校内に入ってきた事件もあるので、安全という観点では学校の門についても触れていただいているのではと思う。また、まだエアコンのない特別教室もあるのでさらに改善できるとよいのではないか。居場所について本校も9月から設置していただけるのでありがたいと感じており、多様な居場所があることは子どもたちにとってよいと思う。

会 長： 長い間、ご審議頂きありがとうございました。一部修正が加わるが、原案通り承認してよろしいでしょうか。よろしければ拍手をお願いします。

<拍手全員>

会 長： 可決承認いただきましたので、この報告書については8月定例教育委員会に上程し、議決後、瀬戸市議会に報告し、公表することとなっている。

3 会長総括意見

吉田会長より今回の報告書に対する総括意見が述べられた。

4 教育長総評

加藤教育長より今回の報告書に対する意見提言へのお礼及び総評が述べられた。